

花王のアプローチ

花王の事業は、製品のライフサイクル全般において生物多様性からさまざまな恵みを受けていることで成立しています。生物多様性の保全が世界的な課題になっている中、花王は自社の事業による生物多様性への影響を低減するとともに、その恵みを使いつくすことなく持続的に利用していくことを、事業活動と社会活動双方の活動を通じて進めていきます。

社会的課題と花王が提供する価値

パーム油や紙、パルプは花王の主要原材料です。とりわけパーム油は、その生産地において森林破壊や現地に住む方々の人権侵害等、深刻な社会的課題を抱えています。花王はこの問題を真摯にとらえ、認証品の購入や原産地までのトレーサビリティ確保について具体的な目標を定め、その達成に向けて活動を推進しています。それにより、森林破壊や人権侵害のない持続可能な原材料調達に努めています。

貢献するSDGs



方針

花王は、事業活動の生物多様性に関わるリスク分析を踏まえて、2011年に「生物多様性保全の基本方針」を策定し、①事業との関わりの把握、②影響の低減、③独自の技術開発、④国際的な取り決めの遵守、⑤地域生態系に配慮した事業活動、⑥社員の意識向上、⑦社外関係者との連携の7つの方針を掲げました。詳細な行動指針と各方針に対応する具体的な活動事例をウェブサイトにて公表しています。



→詳細は「生物多様性保全の基本方針」と「行動指針と活動事例」
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/statement-policy/statement/biodiversity-policy.html>

体制

花王では、生物多様性保全活動をグループ全社で中長期にわたって確実に推進していくため、生物多様性に関する方針、目標、計画、活動等についてレスポンシブル・ケア推進体制で管理しています。



→P185「ガバナンス>レスポンシブル・ケア活動/体制」

教育と浸透

「生物多様性保全の基本方針」を策定した2011年から2012年にかけて、日本花王グループの全社員を対象としたeラーニングを実施しました。2013年からは、新入社員に対し生物多様性を含む環境教育を毎年実施しています。海外については、毎年開催しているグローバルRCミーティング等を通じて生物多様性に関する啓発を行なっています。また、生物多様性に配慮した緑地保全活動の全社での推進を開始しており、この活動への参画を通じて、全社員に生物多様性への理解を深めてほしいと考えています。

中長期目標と実績

2020年中期目標

原材料の調達などの面で、生物多様性保全に努めます。
原材料調達については、主要原材料であるパーム油や紙・パルプについて、2020年目標を詳細に設定しています。



→詳細はP134「コーポレート・カルチャー>持続可能で責任ある調達」

2018年目標

生物多様性に関するレスポンシブル・ケア目標として、以下を掲げています。

1. 持続可能な原材料調達の推進

2020年目標の達成に向けて、活動の着実な推進に努めます。

2. 地域の生物多様性に配慮した事業活動・社会活動の推進

拠点の生物多様性保全状況評価：
工場を有するグループ全拠点における生物多様性保全活動の現状レベルを把握し、今後改善すべきポイントの明確化および活動目標・計画を立案する目的から、グローバル共通の生物多様性評価指標を導入しました。

3. コピー用紙削減

削減方法の周知と啓発／目標進捗管理と削減の推進

4. グリーン購入の推進

グリーン購入の周知と啓発／目標進捗管理とグリーン購入の推進

2017年の実績

1. 持続可能な原材料調達への推進



→ P134「コーポレート・カルチャー」> 持続可能で責任ある調達」

2. 地域の生物多様性に配慮した事業活動・社会活動の推進

各拠点における生物多様性保全活動の推進

・和歌山工場

公益財団法人都市緑化機構が認定する、SEGES(社会・環境貢献緑地評価システム)において、認定レベルとして5段階評価の最高位を取得しました。

和歌山市内の小学4年生を対象に、水軒堤防の取り組みを通じて和歌山の歴史と環境について学ぶことができる学習教材「水軒堤防ものがたり」を制作し、4,000部を和歌山市に寄贈しました。

和歌山県が主催する「企業の森」事業に2007年から参画し、植栽や下草刈りなどの活動を行ってきました。活動地が健全な山林に育ってきたことから、和歌山県紀美野町に新たな活動地を契約し、活動を開始しました。



→ 詳細は P 59「具体的な取り組み:和歌山工場における環境保全活動」

・鹿島工場

「社員の森」において、地域住民や社員の家族を対象に、「自然とふれあう環境教室」を開催しました。木の実や落ち葉等を用いて子どもたちに自由に創作してもらった「森の芸術家」工作活動などの環境啓発イベントを行ないました。

「社員の森」育成活動によるCO₂削減効果とそれを題材にした環境教育活動が評価され、「クールアースいばらき大会2017」で最優秀賞を受賞しました。

・川崎工場

川崎市の臨海工業地域に位置する工場ですが、敷地内の緑地は地域有数のまとまった緑地として外部から高く評価されています。2017年は外部専門機関による生物調査を実施し、ジャコウアゲハ等、数多くの生物の生息を確認しました。現在、生物多様性に配慮した緑地管理方法の検証を進めています。

花王・みんなの森づくり

2017年3月に、2016年助成先として「森づくり活動」分野で11団体、「環境教育活動」分野で10団体、合計21団体の助成を決定しました。これまでにのべ432団体を支援しており、活動に参加した市民の方は32万人に上ります。

タイ北部“FURUSATO”環境保全プロジェクト

2012年から2016年の5年間で、目標としていた35ha

に42,500本の植林を達成しました。タイ北部の森林再生に寄与すると同時に、形成された森林をどのように生かすか共存していくかといった、住民主体の持続可能な森づくりへの意識も高まりつつあります。

第1フェーズのプログラムは終了しましたが、第2フェーズのプロジェクトを通じて地域住民の雇用創出や技術取得につながる森づくりのフォローアップを計画しています。

「東日本グリーン復興モニタリングプロジェクト」を社員ボランティアがサポート

2017年は、10人の社員が現地に赴き、調査のサポートをしました。この調査で得られたデータは、生物多様性に配慮した復興の計画や、種の保全のために活用されます。

「花王・教員フェロシップ」で教員を野外調査プロジェクトに派遣

2017年は、5プロジェクトに10人の教員が参加し、現地で得られた経験を学校や地域での環境教育に活用いただいています。11月には、本年度およびこれまでの参加者が参加する活動報告会を実施し、環境教育の実践事例の情報交換を行ないました。これまでのべ75のプロジェクトへ148名の教員の皆さまに参加いただいています。



→ 詳細は「社会貢献活動報告書」
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/society/social-reports/>

ステークホルダーとの協働

- ・花王の事業活動・社会活動全般について、生物多様性を含むサステナブルな視点から、今後も正道を歩み続けていけるように、定期的に外部コンサルタントの助言をいただいています。
- ・2008年の発足当初から参加している「企業と生物多様性イニシアティブ(Japan Business Initiative for Biodiversity:JBIB)」において、異業種のさまざまな企業と連携して、企業が生物多様性の保全にどのような形で貢献できるのかを検討する研究活動やイベント開催等、多様な活動を推進しています。
- ・国内外の各拠点において、地域の生物多様性に配慮した事業活動・社会活動を推進するため、省庁、自治体、学術機関、NGO/NPO等のさまざまなステークホルダーと連携した生物多様性保全活動を推進しています。

具体的な取り組み

和歌山工場における環境保全活動

防潮林の保全

和歌山市には、江戸時代初期に地域の民家や農地を潮風から守る目的で作られた長さ約3kmにも及ぶ松林の堤防があり、その一部は「水軒堤防(すいけんていぼう)」という県の史跡に指定されています。この松林が敷地内を南北1kmにわたり縦断している和歌山工場では、長い間その保全に努めてきました。



和歌山工場と工場を縦断する松林



和歌山工場の松林保全ゾーン

2011年以降、和歌山工場は、他を牽引する「生物多様性モデル工場」として、松林を中心に、生物多様性に配慮した緑地づくりや管理・利用などの取り組みを行ってきました。松林保全ゾーンには遊歩道を設け、社員啓発や、工場内にある「エコラボミュージアム」と連携した社会とのコミュニケーション推進等にも有効に活用しています。

2017年には、水軒堤防を作った昔の人の知恵と工夫や現在の保全活動を地域の子どもたちに是非知ってもらいたいとの思いから、和歌山市の元小学校教員や和歌山市教育委員会等の協力を得て、郷土の歴史と環境について学ぶことのできる学習教材「水軒堤防ものがたり」を完成させました。本冊子は、和歌山市内のすべての小学4年生を対象としており、4,000部を和歌山市に寄贈しました。



和歌山市役所で行なわれた「水軒堤防ものがたり」の贈呈式

「企業の森」に社員が参加

地域で行なわれている森林保全や清掃等のさまざまな環境保全活動に一般の社員が積極的に参加しています。たとえば、和歌山県が主催する「企業の森」事業には2007年より参画し、多くの社員の手により、荒れていた山林に約700本の地元種を植栽し、以降も下草刈りを毎年継続しています。活動地が健全な山林に育ってきたことから、2017年は新たな活動地を追加し、植栽に備えた地拵えを行なうなど、活動の幅を広げています。

こうした活動が総合的に評価され、和歌山工場は公益財団法人都市緑化機構が認定するSEGES※「そだてる緑」において、認定レベルとして5段階評価における最高位である「Superlative Stage」を取得しました。



「花王の森 おいし」にて不要な雑木を伐採する社員

※ SEGES

社会・環境貢献緑地評価システム。緑を守り育てる活動を通じて社会や環境に貢献している企業の緑地を対象に、特に優れた取り組みを客観的に評価する。

事業と生物多様性との関わりの把握

花王は、環境影響を統合して数値化できるLIMEなど、さまざまな評価手法を用いて製品が環境側面に及ぼす影響を包括的に評価しています。



→詳細はP22「エコロジー」>環境への取り組み/環境に配慮した製品の設計-LCAを用いた製品の環境影響評価